

平成 26 年（2014 年）の弥陀ヶ原の火山活動

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過しています。

立山地獄谷では以前から熱活動が活発に継続しており、この付近では火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

発表中の火山現象に関する警報等

平成 19 年 12 月 1 日 10 時 20 分	噴火予報（平常）
----------------------------	----------

2014 年の活動概況

- ・ 噴気・地熱等の状況（図 1～9）
 - 9 月 2 日から 4 日にかけて地獄谷噴気地帯の現地調査を実施しました（図 1～4）。地獄谷周辺では、引き続き活発な噴気活動が認められました。特に紺屋橋南東斜面での噴気地帯では噴気活動が前回の現地調査（2013 年 10 月 1 日～4 日）と比べ、活発化していました。
 - 10 月 31 日に北陸地方整備局の協力により上空からの観測を実施しました（図 5～9）。赤外熱映像装置^注による地表面温度分布観測では、地獄谷周辺などに引き続き高温域がみられました。
- ・ 地震や微動の発生状況（図 10）
 - 弥陀ヶ原近傍の地震活動を詳細に把握するため、立山室堂に地震計を設置して 2012 年 11 月から行っている観測では、弥陀ヶ原近傍を震源とする地震は少なく静穏に経過しています。
 - 火山性微動は観測されていません。

注）赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する機器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、京都大学、東京大学、名古屋大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）

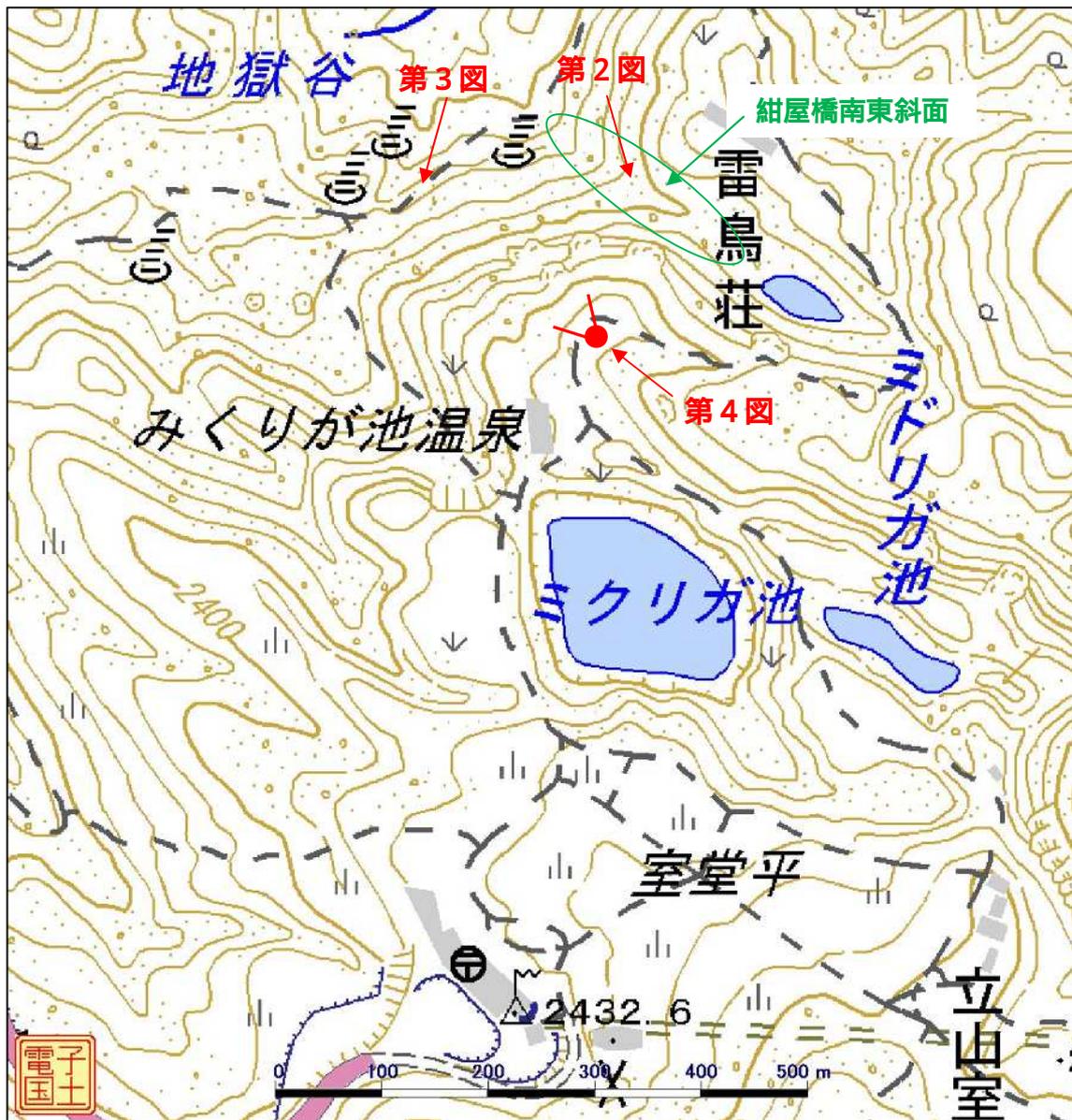


図1 弥陀ヶ原 地獄谷地図

(図2、図3の位置及び図4の撮影位置・方向を示します)

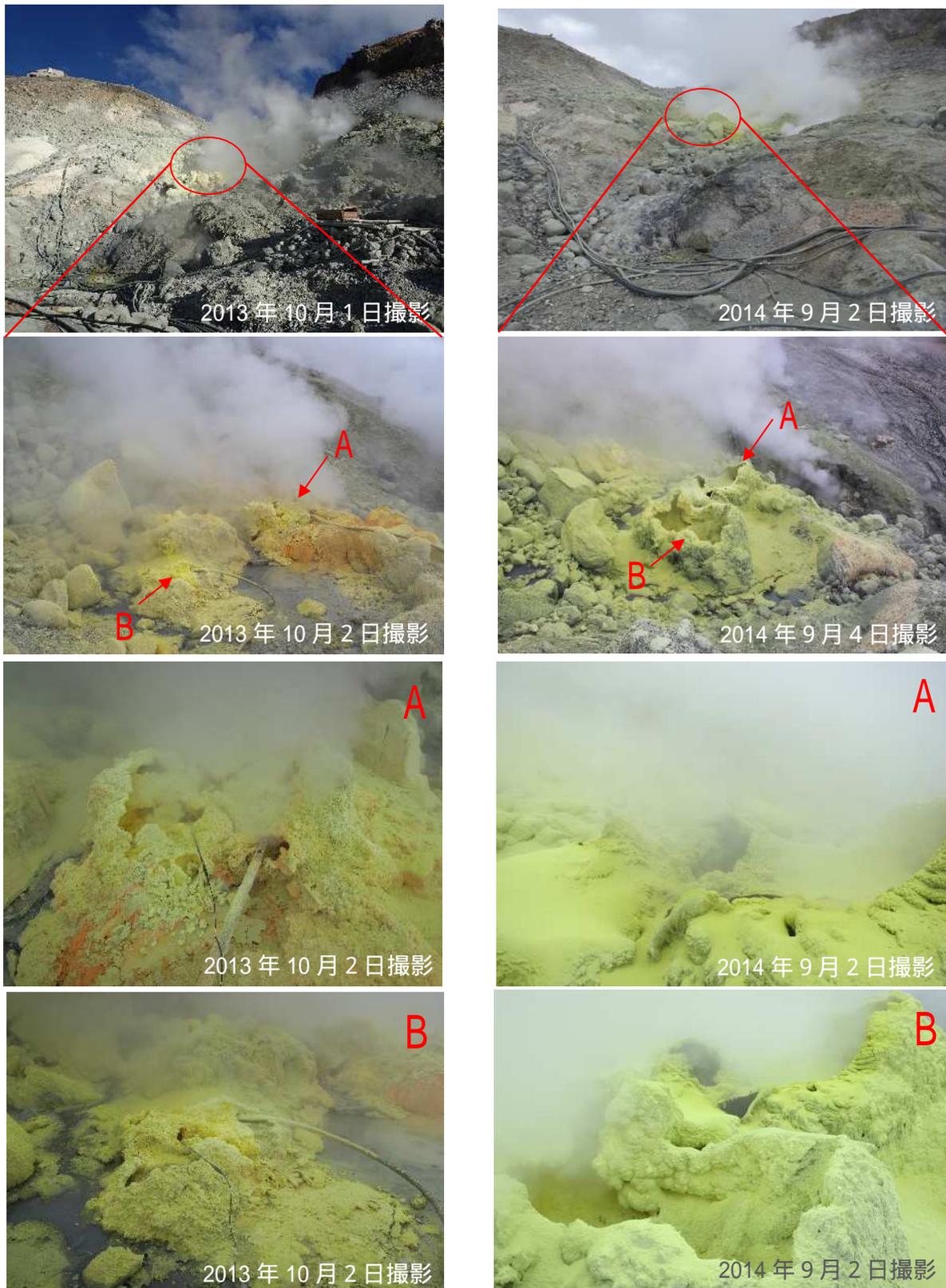


図2 弥陀ヶ原 地獄谷紺屋橋南東斜面の状況

- ・撮影位置は図1を参照 左側が前回調査(2013年7月2日)、右側が今回調査(2014年9月2~4日)
- 上から順に
- ・全景
- ・全景写真赤丸内の噴気孔の様子。二つの噴気孔(A、B)があります。
- ・噴気孔Aの様子
- ・噴気孔Bの様子



図3 弥陀ヶ原 地獄谷遊歩道の状況

・撮影位置は図1を参照

・上：今回調査（2014年9月4日）

・下・前回調査（2013年10月1日）

遊歩道上の陥没した所には、前回の調査に引き続き噴気が出ていました（赤丸）。また、前回の調査で確認された新鮮な硫黄昇華物は、今回確認されていません（白丸）。

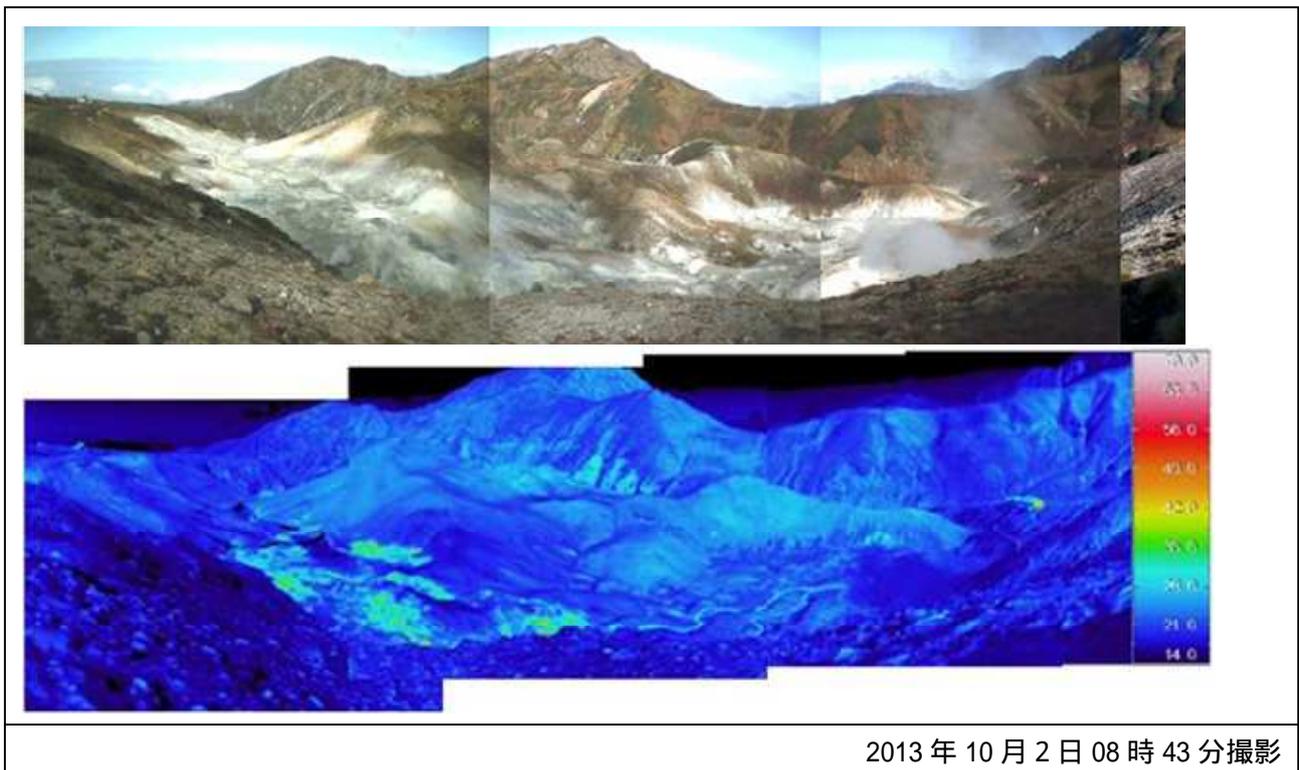
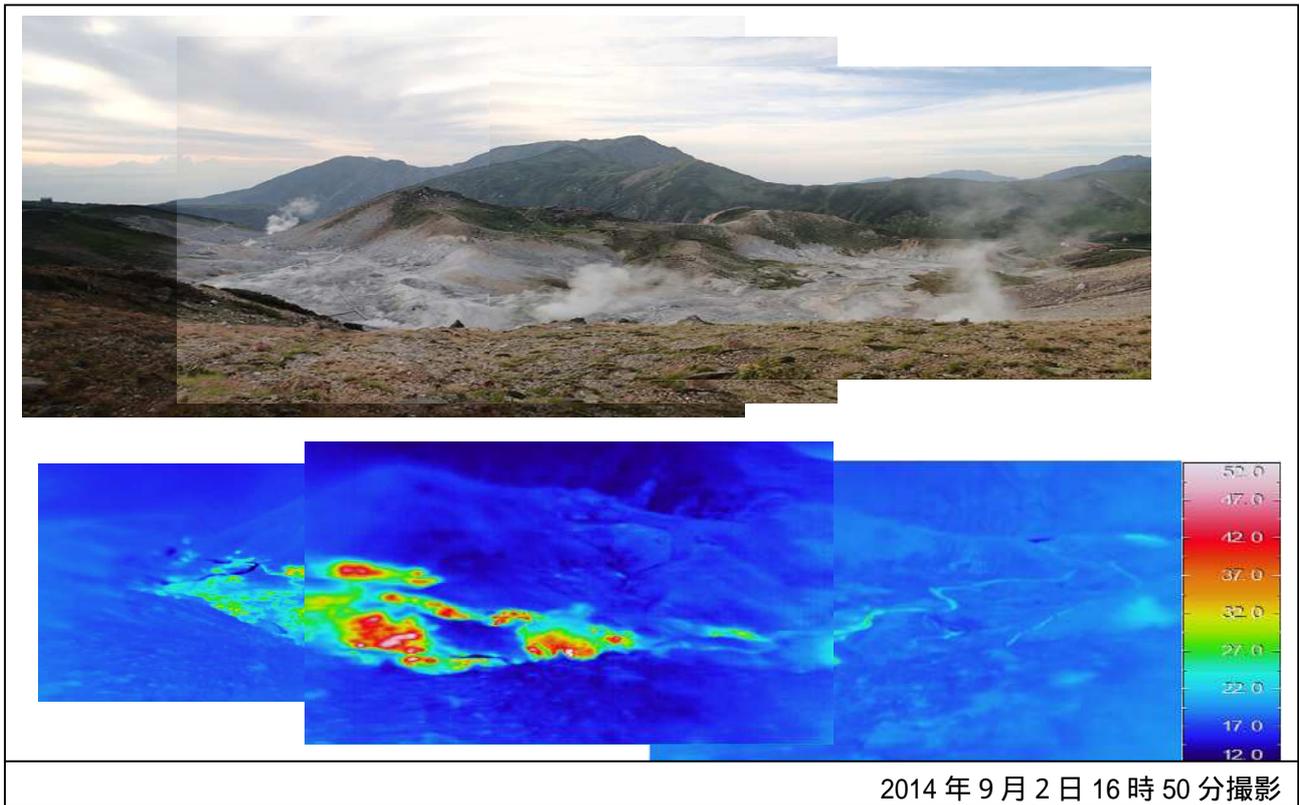


図 4 弥陀ヶ原 地獄谷噴気地帯の地表面温度分布

・撮影位置と撮影方向は図 1 を参照

前回(2013 年 10 月)と今回(2014 年 9 月)の比較では、高温域の分布に特段の変化は認められません。

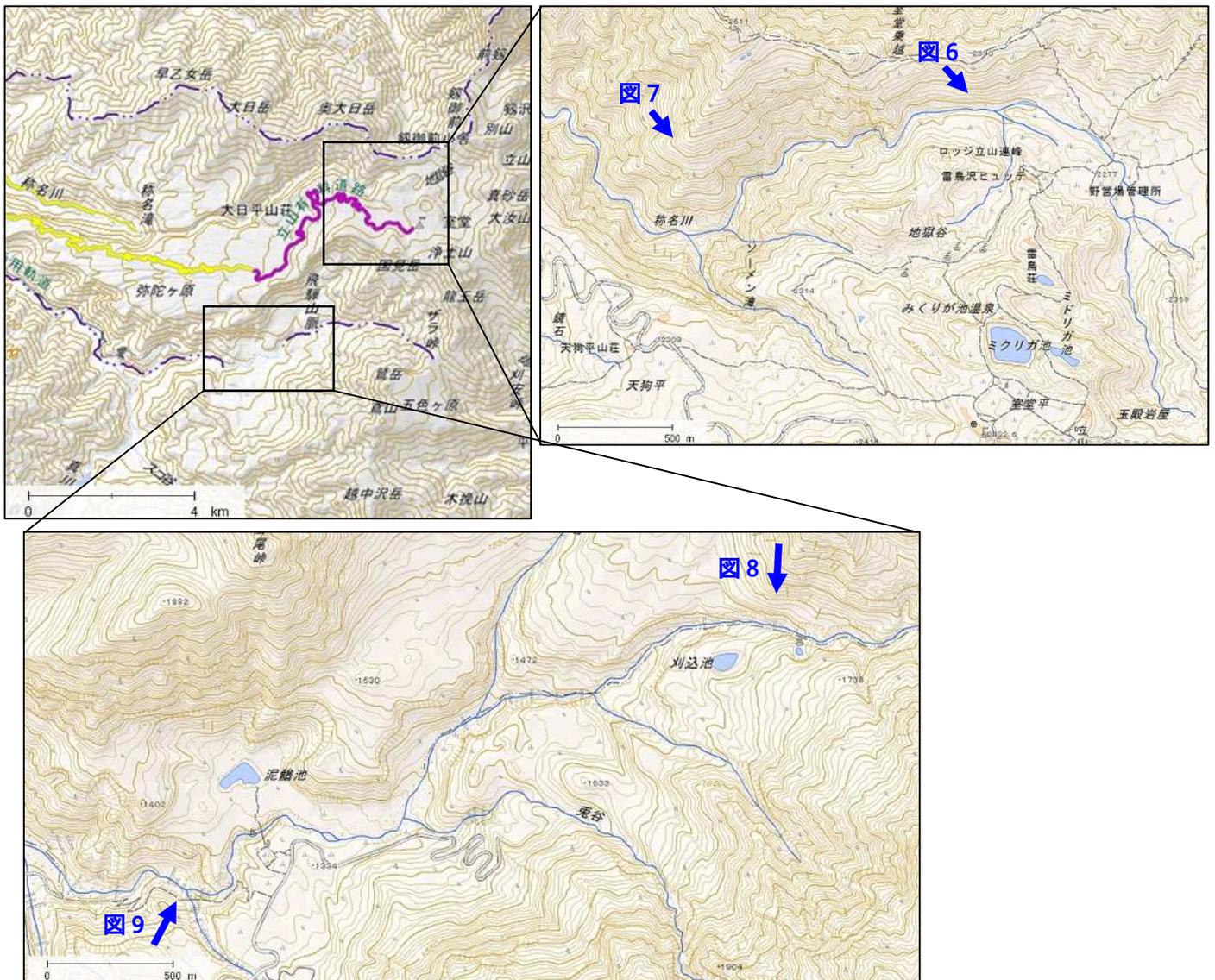


図5 弥陀ヶ原 撮影位置図

図中の矢印は図6～9の撮影位置と撮影方向を示します。

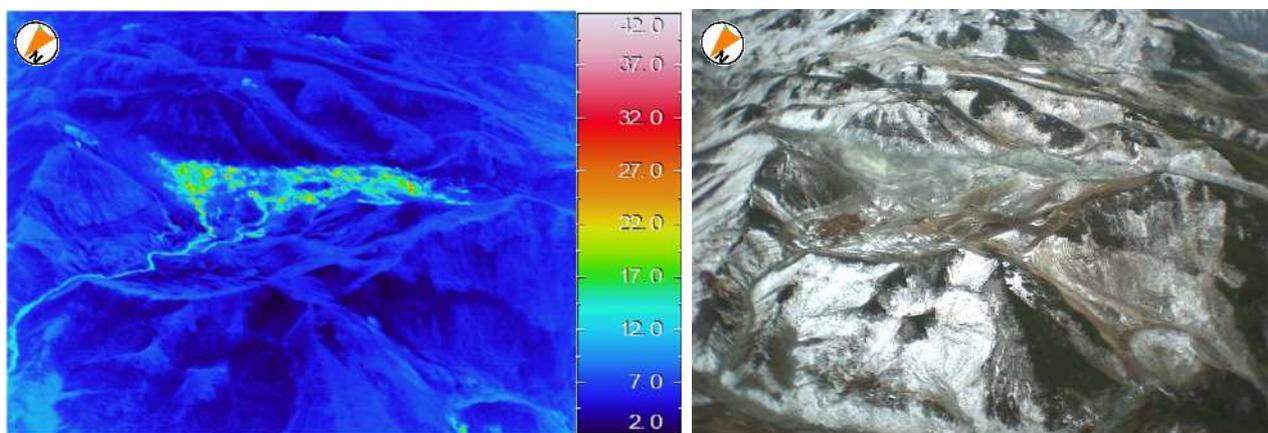


図6 弥陀ヶ原 地獄谷付近の状況

左：赤外画像 右：可視画像 2014年10月31日11時34分地獄谷の北西側上空から撮影
地獄谷一帯に高温域が認められます。

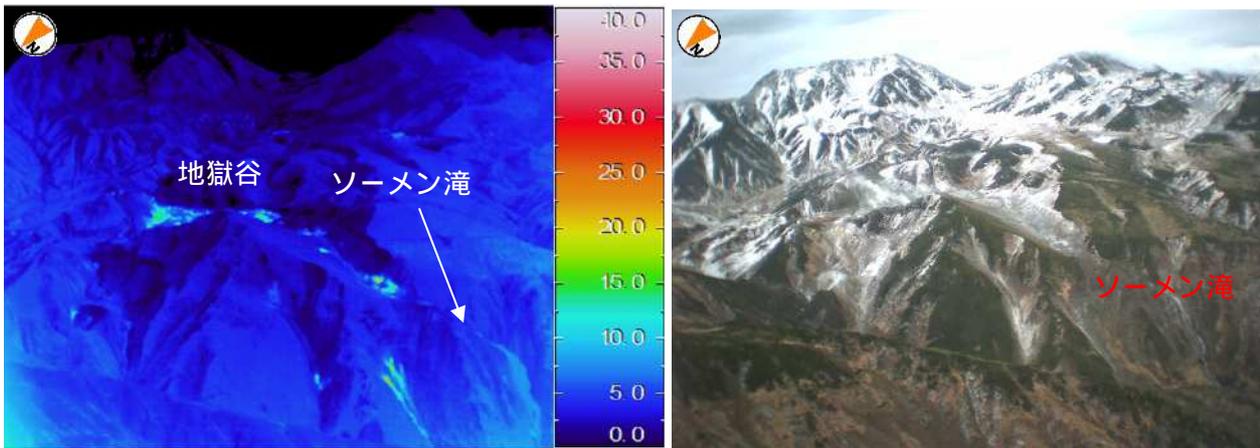


図 7 弥陀ヶ原 ソーマン滝付近の状況

左：赤外画像 右：可視画像 2014 年 10 月 31 日 11 時 24 分ソーマン滝の北西側上空から撮影
ソーマン滝周辺にいくつか高温域が認められます。

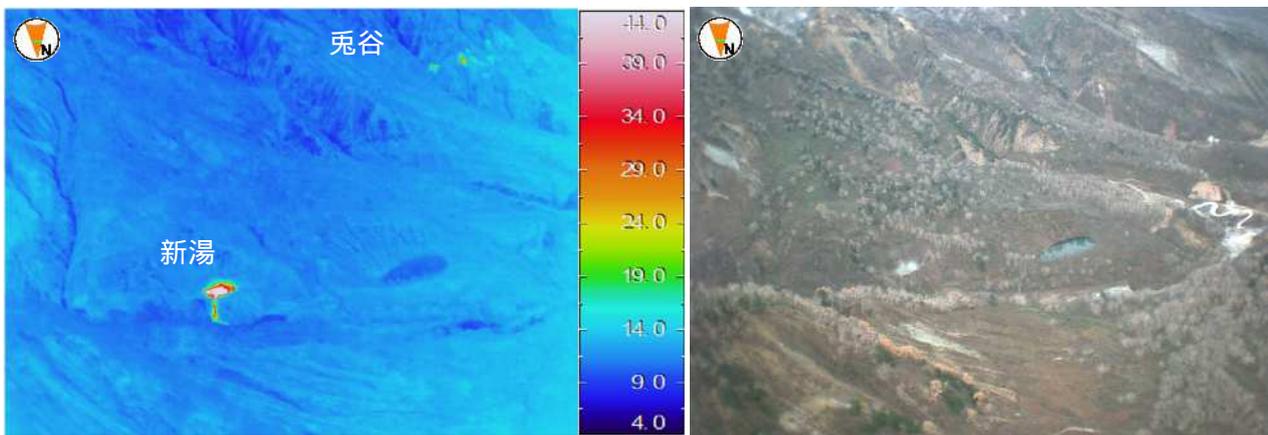


図 8 弥陀ヶ原 立山カルデラ新湯付近の状況

左：赤外画像 右：可視画像 2014 年 10 月 31 日 11 時 39 分新湯の北側上空から撮影
新湯や兎谷付近に高温域が認められます。

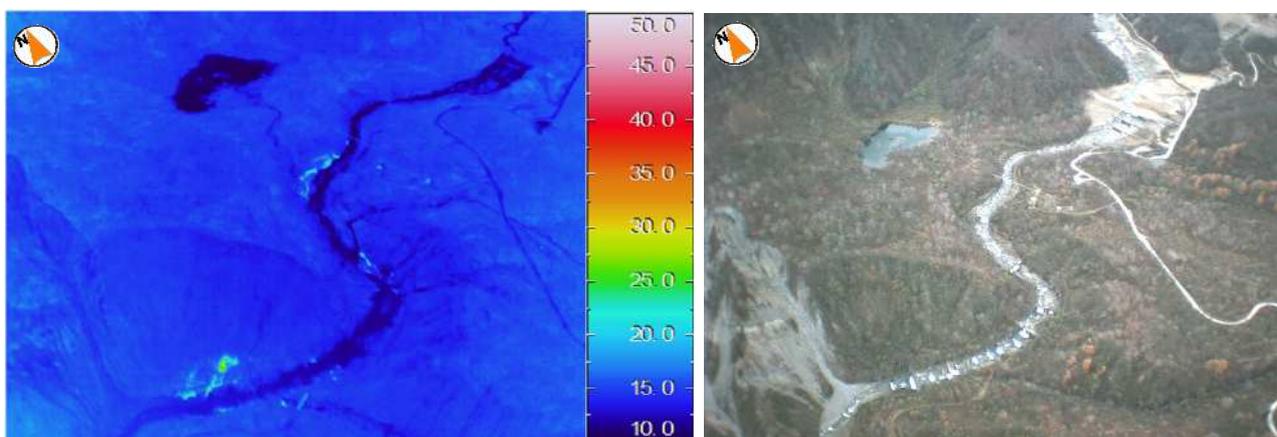


図 9 弥陀ヶ原 立山カルデラ温泉源付近の状況

左：赤外画像 右：可視画像 2014 年 10 月 31 日 11 時 46 分温泉源の南西側上空から撮影

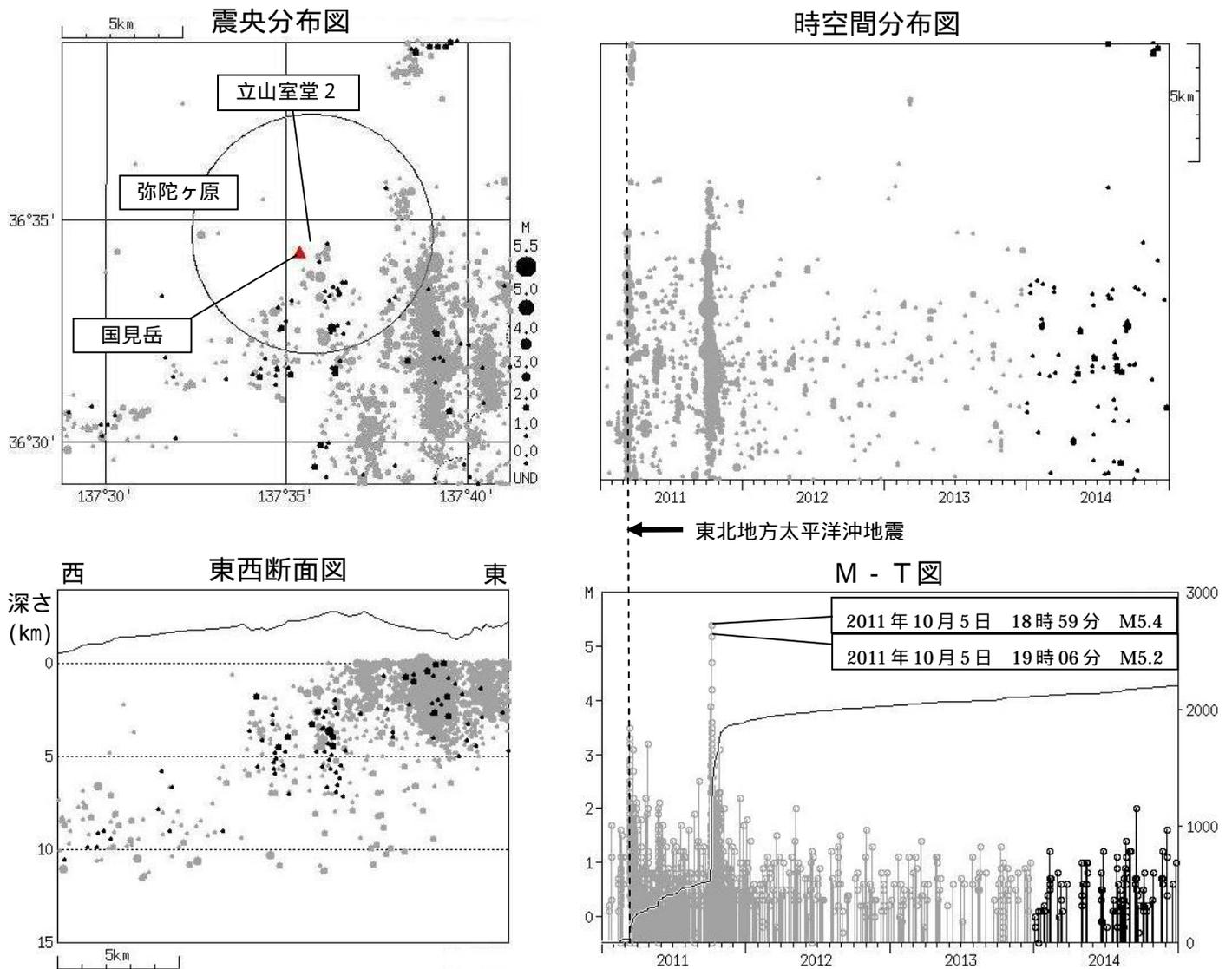


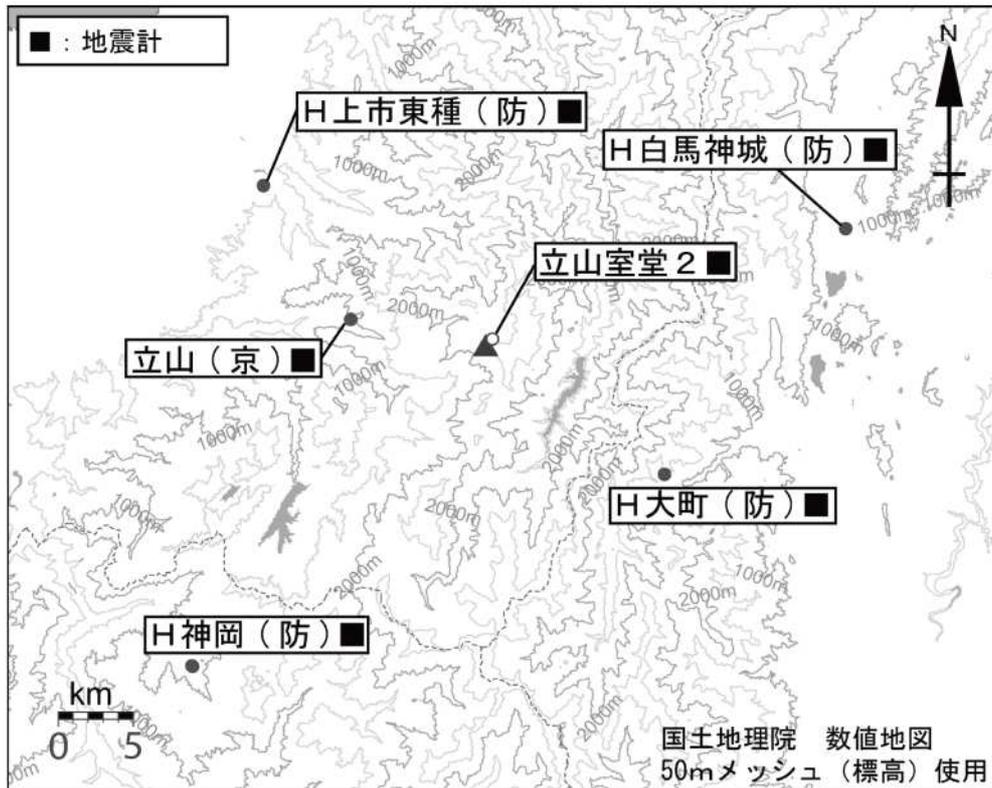
図 10 弥陀ヶ原 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動

(2011 年 1 月 1 日 ~ 2014 年 12 月 31 日)

： 2011 年 1 月 1 日 ~ 2013 年 12 月 31 日

： 2014 年 1 月 1 日 ~ 12 月 31 日

- ・ 震央分布図の点線の円は、立山室堂に設置した地震計（立山室堂 2）で S-P 時間 1 秒以内となるおおよその範囲を示します。
- ・ 今期間、周辺の地震活動は低下しながら継続しています。
- ・ 弥陀ヶ原近傍の地震活動は、低調な状況で経過しています。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(京) : 京都大学防災研究所

図 11 弥陀ヶ原 観測点配置図

表 1 弥陀ヶ原 気象庁の観測点一覧

測器 種類	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		緯度	経度	標高(m)			
地震計	立山室堂 2	36° 34.66′	137° 35.73′	2426	0	2012.11.7	短周期 3 成分